



“うれしい驚き”をお年寄りや子どもたち そして地域に捧げたい

伸こう福祉会は1976(昭和51)年、創立者である片山ます江の「なんとかしなくっちゃ」という想いからスタートしました。当時、片山が「なんとかしなくっちゃ」と思っていたのは、働く親たちへの支援。「仕事」と「納得のいく子育て」を両立できるようにと、自宅の片隅を改装して小さな無認可保育園を始めたのが、私たちのグループの始まりです。その後、1986(昭和61)年には「お年寄りの家」をコンセプトにした、独身寮改装型の格安の高齢者施設を開所して高齢者介護に参入しました。1999(平成11)年からは現在の社会福祉法人の形態で、神奈川県内を中心に36カ所の介護施設・事業所と、8カ所の保育所を運営しています。

法人の基本理念は、設立当時から「すべてのよきものを人生の先輩たちと後輩たちに捧ぐ」というものでしたが、平成26年度からは新たに「地域」という言葉を追加し、「すべてのよきものを人生の先輩たち、後輩たち、そして地域に捧ぐ」となります。私たち社会福祉法人は、国や自治体から多くの補助金をいただいて介護施設や事業所を運営しています。補助金の財源は地域住民が納めた税金です。つまり私たちの法人は、地域からの支えによって存在しているのです。だからこそ、施設を利用する方のみならず、地域への貢献も法人の大切なミッションであると考えています。

その取り組みのひとつが、「地域への発信」です。伸こう福祉会では2012(平成24)年に、地域住民、利用者、職員、職員家族、取引先の総勢200人でつくる「ミュージカル」公演をいたしました。ミュージカルを通じて、一人でも多くの地域の方に福祉施設のことを知っていただきたいと思ったのがきっかけです。

また2013(平成25)年11月には、世界8カ国から福祉の専門家を招き、それぞれの国の福祉事情についてご講演いただく「国際福祉サミット」を開催しました。世界中から集めた「よきもの」を日本の福祉関係者や地

域の方と分かち合いたいという考えから、サミットの開催に踏み切りました。高齢者住宅経営者連絡協議会から全面的なご協力をいただいたおかげで、中身の充実した、とてもよいイベントになりました。

講演のなかで印象的だった言葉は、ある講師による「われわれの仕事はたんに利用者を生かしておくことではなく、幸せにすることなのだ」というもの。また、別の講師の「人生のもっとも貴重な(高齢時と幼少時の)時間を過ごしている利用者を支える者には特別な能力が必要」という言葉からは、福祉職の専門性についてもいろいろと考えさせられました。

話は変わりますが、私のライフワークは「うれしい驚き」の提供です。関わるすべての方々を驚かせ、喜ばせることで、私自身もうれしくなるのです。ですから、法人の職員達には、つねづね「相手の期待を裏切れ」と話しています。

施設や事業所に足を踏み入れたときに「うわ〜」って驚いてもらいたいから、しつらえには(とくにエントランスは)こだわりたい。サービスを受けて「うわ〜」って感動してもらいたいから、職員には「もうひと手間」にこだわってもらいたい。この「うわ〜」のためにいろいろ考える時間が、最も楽しい時間かもしれません。施設を訪れる方、利用してくださる方に対して、期待以上の働きで、相手を喜ばせたいという想いこそが、伸こう福祉会の原動力なのだと思います。

足立聖子

あだち・せいこ

●PROFILE

社会福祉法人伸こう福祉会理事長。神奈川県を中心に、特養ホームや有料老人ホーム等の介護施設・事業所や保育所を多数運営する。

